以善会レポート特別編⑪

翻刻『松ヶ丘山﨑家略譜稿本』⑩

＝五世、六世万右衛門の事績＝

〔※文中の■は読めなかった文字です。〕

ホ　第五世万右衛門君事蹟

第五世万右衛門君は、第四世晨園君の長子として文化五年西町の邸に生れ母を恭外良温大姉とす。幼名儀一長して祝蔵と云ひ居敬と号す。性温良能く父祖の性に似たり。文政六年正月父の隠居に依り家を継きたるも、戴冠日浅く父君の後援を受けし事論を俟たす。専ら公益を図るを以て念と為す。元来南西郷より結縁寺に通するには新知の山嶺を踰えさるへからずして、農民の苦痛言ふばかりなかりしかば、君大に之を嘆し文政九年コノメリ奥に山道を開鑿し、山の中心を掘鑿して隧道を穿ち、村民の薪炭の採収は勿論小笠山に通する交通路を開きたり。斯の如き篤行者なるを以て天保二年卯暮太田侯より御紋服を拝領セしか、如何せん短命にして、天保三年十月八日病で歿す。本応良空居士と諡し徳雲寺先塋の域に葬る。寿二十五歳惜しむへきなり。嗣なし。弟才兵衛君家を嗣く。

（※この項は別の紙に記載）

文政九年の日記帳に五世万右衛門君の筆蹟を以て左の記事あり。

文政九年　晨園様五十三歳　祝蔵様十九歳

鷹云　右年令は後人の附記か。何となれは自筆に様字訝かし。

正月廿一日　笠屋平次松ヶ丘隠居様へ無礼の記事

二月七日　山田側普請調帳惣計致

五月三日　殿様御目見松市、西亀、古銀、松ヶ丘の四人へ御扶持米弐人扶持宛隠居儀一へ二人扶持被下

九月十二日　山田側物置棟上

同　十五日　四宮仲右衛門町奉行杢左衛門、傳左衛門、山田側

へ御遊

九月廿三日

一、江戸松崎先生掖斎先生御招ニ付山田側ニつれ隠居様若旦那様御揃一夜御泊

十月四日　山角武太夫様御家内中様外四五人山田側保養ニ付隠居様若旦那様御伺

十二月廿九日　高松城主松平讃岐守様御泊

十二月廿六日　殿様ヨリ不相替例年之通リ御年末ニ付隠居様へ白紬被下置

へ　第六世山﨑万右衛門君事蹟

君は第四世晨園君の二男として文化八年西町の邸に生れ、幼名を才兵衛と称し知盈と号す。長兄の死歿に依りて天保三年十月家督を受け、勤倹力行父祖に譲らず、特に信仰心に富み西町十王両町に秋葉山の常夜燈なきを憂ひ天保十己亥年卒先巨費を擲て西町の堺に宏大なる唐銅の常夜燈を建設し、十一月十六日竣工す。当時西万の勢力は遙に西亀に優越して、該燈篭の記石鐫刻の如きも筆頭第一に刻せらる。此の燈篭は台石を八角型として三準に積み上ケ、其の上に唐銅を以て作り、総高約壹丈四五尺の荘厳なるものなり。唐銅の下部に当時の人名を鐫刻セらる。

天保十己亥年十一月十六日建　山﨑万右衛門　村松亀右衛門　問屋八郎右衛門　庄屋銀右衛門　同嘉助　組頭小左衛門　同市太夫　同源太郎　同為吉　半三郎　多七　世話人　半平　伊兵衛　清助　傳藏　八郎左衛門　善八　十蔵　平右衛門　久三郎　彦太　町内中

御鋳物師山田七郎左衛門とあり。

然るに大正年に至り少しく損傷したるを以て、大正十四年一月林直作　大村金平　岡田鐵蔵　栗田淳一　松井定吉　松浦藤蔵　浅岡清太郎　浅岡佐吉　佐野幸太郎　宮﨑藤次郎　宮内安吉　水野

教平　関林江茂　菅沼甚蔵　菅沼龍一　鈴木伊吉　角谷伊太郎
杉山周助等発起となり、修覆を加へて原形に復したり。当時修繕費の六円以上を寄附したる者を挙くれは左の如し。
弐百円山﨑健太郎　八拾円関林江茂　弐拾円三五銀行掛川支店
拾五円菅沼甚蔵　拾円山﨑敬一　拾円林唯三郎　八円宮﨑藤次郎　八円内藤庄一　八円松村茂助　七円松島藤次郎　六円杉山周助（五円以下略す）
台石（八角中の一角）下段三尺四寸五分　中段二尺九寸　上段二尺三寸五分
鷹云　此の燈籠は掛川町には偉彩を放つ燈籠なりしも、昭和十八年に至り、東亜戦争益々織烈と相成、軍用資材として金属回収の事あり、同年二月初旬遂に此燈籠を取毀ち供出するの止むなきに至れり。惜むへき事なり。

嘉永年間打続き米穀高値にして、小前一同生活難渋の時あり。当家六世之を見るに忍ひす、米金を出して之か急場を救済したり。今十王某家の反古中より出てたる、西町々内役人の記録せし帳簿の残片を左に録す。
嘉永四年亥正月施米割付帳
近来打続穀高ニ而小前一統難渋の時節に相成候に付今度山﨑万右衛門殿方町内小前一統江両三日凌ため乍少分施米御差出相成度旨私共江被仰聞極難之時節を御救被下候段難有奉存候ニ付小前一統江申談右御救米割賦いたし難有頂載為仕候ニ付右割賦左之通
町内家数　百六拾三軒
内弐拾軒除
引百四拾三軒　壹軒ニ付米壹斗宛
家内小供江米壹升宛　但十才以上江
無談事除　（鷹云　一行一人宛記載）

助

嘉助　八郎右衛門　銀右衛門　伊兵衛　源太　小左衛門　源

談事之上除

源六　久三郎　忠兵衛　太兵衛　市太夫　十蔵　幸吉　五郎

右衛門　卯兵衛　清助　善八　嘉左衛門

五百文宛

馬士直蔵　為蔵　惣八　傳吉　糸蔵　助蔵　寅蔵　豊蔵　善

五郎

（此間横帳半ぴら破損ニ付記事不明）

一米壹斗弐升　政吉

一米壹斗三升　権右衛門

一米壹斗壹升　伊兵衛

一米壹斗壹升　万七

一米壹斗弐升　庄七

一米壹斗五升　伊助

一米壹斗四升　繁蔵

一米壹斗三升　傳治

（以下全部一行一人ニ記載）「△の符号不明）

林蔵　杢右衛門　利助　九左衛門　源太郎　源三郎　冨八

太兵衛　「源助　惣左衛門　市太夫　喜右衛門　「次郎助

七兵衛　△文吉　三代二　△長兵衛　△善助　傳蔵　忠兵衛

武左衛門　惣七　角右衛門　松五郎

計百五拾軒　金弐朱ト米二斗宛

内

百六軒

此金拾三両壹分

米五拾俵弐斗

借家物

計四拾四軒　但四百文　米壹斗宛

米拾俵弐斗

拾七貫六百文
惣計金拾三両壹分
銭拾七貫六百文
金壱朱　徳雲寺
五百文ツヽ
役士共源八太郎五郎渡　半次　安兵衛　仁助　鉄蔵　三平　恒吉
民蔵　長次　半三　惣八　八百蔵
寄特米割賦印形帳
（各戸氏名略）
栄蔵始メ以下六十一軒　五石四斗六升
小計百八十二人
徳兵衛始メ以下三十四軒　壹石八斗八升
小計九拾四人
馬士駒吉始メ以下五軒／　－小計
小計十九人
車力半治始メ以下三軒－　四斗五升
小計拾壹人　／
外六軒　小計三斗九升
惣計八石壹斗八升四壹五此俵拾九俵七分壹厘
計残弐分九厘
大豆ニ取替　町内抱馬六疋江施遣ス

第六世万右衛門君時代に於て十王北裏南西郷村地内に居宅を建築移転すへき計画を樹て、弘化四年九月宅地の地替手続をなし、続て家屋新築嘉永四年亥四月十一日新邸に引移りたり。今当家に存する新宅地取定に関する書類及「家移祝儀請納帳」なる一冊を閲するに、左の順序に詳細記載あり。

一、祝儀受物人名品名数量

中程に「嘉永四年亥四月十一日西町より松ヶ丘江移徙」とあり。

次小供招待并家内別家祝宴
次西町十王不残呼人数人名并献立
次十二日膳部献立及呼人等
次十三日魚払底ニ付明日へ延す
次十四日招待人名膳部献立
次十五日同上并西町馬士人足へ祝儀
次南西郷村呼人数人名献立、詳細に記し南西郷村計四拾弐軒とあり。

乍恐以書附奉願上候

西町山﨑万右衛門儀是迄之居屋敷出火等之節不都合之儀も有之此度同町北裏南西郷村地内弐拾六之坪之内瓦師善次跡屋敷江家作仕度旨然ル処居屋敷地ニ可相成分之内右瓦師屋敷分中畑壹畝四歩屋敷弐畝拾四歩此分米合四斗地并大工屋敷分三畝弐分此分米三斗九升八合六勺桶師屋敷分上畑壹畝四歩屋敷弐畝拾九歩此分米合四斗三升二合九勺之地所いつれも前々より居屋敷地被下置銘々難有所持仕居尤当時渡世為勝手之外ニ住居仕候ニ付右者万右衛門同村之内持地之分と永々地替之儀村役人中始私共江談示有之前書瓦師屋敷分者七之坪ニ而上畑四畝六歩之内拾八歩九分此分米五升四勺九之坪ニ而上畑弐畝歩此分米壹斗六升同坪ニ而中畑四畝歩之内弐畝廿壹歩二分五厘此分米壹斗八升九合六勺合高四斗地桶師屋敷之分者七之坪ニ而屋敷壹畝四歩此分米壹斗四升七合三勺同坪ニ而上畑四畝六歩之内三畝拾七歩壹分此分米弐斗八升五合六勺合高四斗三升弐合九勺之地大工屋敷之分者廿七之坪ニ而中田壹反五畝歩之内三畝九歩六分六厘此分米三斗九升八合六勺之地右之場所にて地替請渡ニ相成候得者於私共ニ而茂勝手都合茂宜儀旁内談相整候ニ付右万右衛門ゟも可奉願候間此段私共一同奉願上候願之通被　仰付被下置候ハゝ一統難有仕合奉存候以上

当時下俣町住居

弘化四丁未年九月　　大工職　小左衛門

当時二藤町之内笠屋町住居
桶師職　藤右衛門
当時新村地内二瀬川住居
瓦師　善次

右三人之者共奉願上候趣相違無御坐候右替地取調申上候分御年貢御上納之儀何れも同様御免合ニ相違無御坐候於村方ニ聊差支之儀無御坐候間右之段御聞済被成下候様一同奉願上候以上

南西郷村
組頭　孫右衛門
同　角右衛門
同　庄兵衛
百姓代　又五郎

（※それぞれの名前の下の漢数字は朱書）

嘉永四年亥四月十一日

家移祝儀請納　（中津横長帳表紙書）

山﨑万右衛門

一酒壹升　清九郎殿　藤八殿　清兵衛殿　半兵衛殿　三代蔵殿　専蔵殿　孫兵衛殿　駒吉殿　伊助殿　傳八殿　十六
一同壹升　十王幸蔵組　十六
一同七合五勺　森下屋惣七殿　十六
一同壹升　十王善八殿　廿四
一酒五合　十王専吉殿　万次殿　廿四
一同壹升　綿屋卯兵衛殿　廿四
一同壹升　三原屋清助殿　廿四
一同壹升　十王糸三郎殿組　十六
一いしもち大五ッ　西町正助殿　廿四
一小鯛五枚　同安五郎殿　三ノ一
一酒壹升　十王米蔵殿　安兵衛殿　直蔵殿　為吉殿

一丼鯛三枚　太助殿　十六
一いしもち五ッ　西町久三郎殿　三ノ二
一酒壹升　木挽五平殿　二ノ四
西町京助殿　幸次郎殿　勝蔵殿　嘉七殿
仙多殿　十六
一いしもち大五ッ　同三五郎殿　幸吉殿　己之介殿　儀助殿
金五郎殿　十六
一同断中五ッ　中村屋専蔵殿
一酒壹升　十王友八殿　新次殿　伊勢吉殿
善次殿　十六
一いしもち五ッ　西町善右衛門殿　廿四
一酒三合五勺　同栄次郎殿
一同壹升　同富五郎殿　惣右衛門殿　平五郎殿　おき
せ殿　半三郎殿　おもと殿　十六
一同酒壹升　同平吉殿　杤蔵殿　倉吉殿　松兵衛殿
熊吉殿
一白口七ッ酒壹升　村松亀右衛門殿　五十
一酒壹升　西町勘右衛門殿　太吉殿　藤右衛門殿
平十殿　十六
一白口五ッ　十王作兵衛殿　十六
一同五ッ　西町寸次殿　廿四
一さば二本　同民助殿　杢右衛門殿　竹蔵殿　廿四
一酒五合　同兵蔵殿　市多殿　十助殿　十二
一しら口五ッ　同久太殿　おふて殿　十六
一酒五升　瓦町善次殿　百文
一しら口五ッ　十王芳次殿　廿四
一酒五合　同糸蔵殿　十二
一中鯛壹枚　同十兵衛殿　廿四
一玉子廿　西町喜右衛門殿　廿四
一酒壹升　同伊助殿　廿四

一同五合　同多助殿　十二
一同弐升　喜町半重殿
一同壹升五合　西町五郎右衛門殿　留七殿　与兵衛殿
彦太殿　忠五郎殿　道兵衛殿　三二
一同弐升　同半平殿　吉兵衛殿　久八殿　秀次殿　三弐
一丼鉢壹盃壹　高田屋嘉助殿　三弐
一酒壹升　西町徳右衛門殿　冨蔵殿　林蔵殿　武助殿
専之介殿　十六
一しら口五ッ　同重蔵殿　廿四
一玉子九ッ　同三代蔵殿　十二
一同廿一　同七兵衛殿　廿四
一酒五合　西町善吉殿　久五郎殿　十弐
一いしもち五ッ　前ノ八右衛門殿　廿四
一酒五合　西町源右衛門殿　十二
一同七合五勺　同太七殿　廣助殿　おむめ殿　十六
一同七合五勺　同清吉殿　仲蔵殿　惣蔵殿　十六
一小鯛三枚しら口弐枚　下俣町代助殿　廿四
一酒壹升　糀屋八郎右衛門殿　廿四
一酒壹升　徳雲寺　廿四
一同壹升　八百屋繁蔵殿　廿四
一同壹升　かひばや惣左衛門殿　廿四
一いしもち七ッ　永田屋長兵衛殿　廿四
一酒壹升　まつ屋太兵衛殿　廿四
一同壹升　山形屋市太夫殿
一いしもち十　研屋町定吉殿　瓦町市兵衛殿
一酒壹升　西町周吉殿　幸蔵殿　新助殿　清蔵殿
五左衛門殿　清七殿　伊兵衛殿　文七殿
一酒五合　西町弥十殿　幸吉殿
一同壹升　古田屋平右衛門殿
一同弐合五勺　松永屋庄七殿　十二

一かます十一本　鳥居半助殿　五十
一竹の子弐本　瓦町おそて殿
一酒五合　高部屋栄蔵殿　十二
一酒五合　三沢屋武左衛門殿　十二
一相生酒三升　南西郷村孫右衛門殿
一玉子十一　中町傳十殿
一同大七ッ　南西郷袋平殿
一酒五合　十九首町寅吉殿
一さより九本　中町半右衛門殿　おうめ殿　三弐
一酒壹升　瓦町亀蔵殿　二四
一酒三升　出入之者およね殿　おまつ殿　善兵衛殿
喜太郎殿　勘蔵殿　兼吉殿　喜十殿　おはつ殿
一同五合　入山瀬村要吉殿
一同五合　倉屋敷與八殿
一同壹升　南西郷村角右衛門殿
一酒三升　南西郷村連中
一さか那但切手　同定七殿
一金五拾疋　松本市右衛門殿　百文
一酒弐升　下又町十次殿　五十
一同弐升　南西郷村八兵衛殿　弥藤次殿　周蔵殿
作兵衛殿　又吉殿
一ふき壹わ　北西郷村源五郎殿
一酒壹升　大工衆惣助殿　樫蔵殿　弥右衛門殿
甚蔵殿　鉄弥殿
一煙草壹　森下屋傳蔵殿　十六
一酒壹升　瓦町四郎兵衛殿　二四
一同弐合五勺　西町才次殿　十二
一同壹升　瓦町銀蔵殿
一同壹升　鶴寿一
一同壹升　布袋屋儀兵衛殿

一大江山酒壹升　油屋彦十殿　三弐
一花蓙壹枚但二間　合羽屋嘉助殿　百文
一さば二本　かさ屋町政平殿
一唐更砂ふろ敷壹外丼鯛二枚　下俣町山崎杏庵様　百文
一しら口七枚　大竹元浩様　五十
一かます七本　伊藤屋八郎右衛門殿　三弐
一さば三本　くわし屋源太殿　三弐
一しら口七ッ　御家中鈴木枡右衛門様　五十
一かます五本　むら松屋伊兵衛殿　三弐
一同断　古田屋銀右衛門殿　三弐
一酒壹升　横町八五郎殿
一しら口五ッ　徳円寺　廿四
一さば弐本　御家中和田喜一郎様　三弐
一同断　さかな町太郎右衛門殿　三弐
一酒五升外しら口五ッ　十九首六太夫殿　百文
一大江山酒弐升　円満寺　百文
一酒壹升外鮒すし壹　後藤前太夫殿　百文
一あま鯛小十一枚　一文字屋八太夫殿　五十
一赤飯壹組　伊達方鈴木九郎左衛門殿　百文
一さかな　御家中和田平太夫殿　百文
此わけ　まぐろ作身壹皿　つまみ物壹皿　三ばい壹鉢　」
かます焼魚吸物分
一大江山酒壹升　二藤町圓助殿
一同調合壹升　御本陣弥三左衛門殿
一大江山酒壹升　村田屋武兵衛殿
一同調合酒壹升　神代地隆三郎殿
一大江山酒壹升　ふし見屋次左衛門
外中鯛二枚
一■■■七枚　戸塚隆伯様　百文
外酒壹升

一玉子十五　三川屋千代蔵殿　さし物屋亀蔵殿　十六
一酒壹升　二瀬川清六殿　廿四
一竹之子大五本　瓦町かじ屋おみよどの
一赤飯壹組　平川村黒田太郎左衛門殿使手掛壹　百文
外かます干物三枚　白口干もの二枚　うで海老二盃
一酒壹升　十九首嘉吉殿　二四
一大鯛二枚　下垂木村与右衛門殿　百文
一中鯛三枚　廣楽寺　五十
一小鯛三枚　西町五右衛門殿　廿四
一山本山索外はも二本　二藤町清右衛門殿　五十
一甘鯛小二枚外はも一本　油屋清兵衛殿　五十
一鰹節壹れん　御家中山角才兵衛様
〃一かます大十本小十九本　相良波津
〃一大鯛一枚　八十右衛門殿
〃一海老大六はい小五はい　相良波津平七殿
〃一大鯛一枚　同人
一あら大一本　上張村関平殿
一あわひ弐盃　御家中高木頼母様
一酒壹升　喜平　忠蔵　惣五郎
一同壹升　古手屋源六殿
一同壹升　牛頭村彦右衛門殿
同　彦左衛門殿
一掛物壹幅　御家中福島平作様　弐百文
一酒弐升　各和村佐次右衛門殿
一同壹升　酒屋勘六殿
一かつを壹本　谷ノ口嘉作殿　五十
一大かつを壹本　下俣町郡平殿
一中かつを壹本　一文字屋十蔵殿　五十
一酒壹升　二藤町源五郎殿
一大かつを弐本　御賄方服部大五郎様　小野良左衛門様

和田平太夫様　松山定次郎様
森下為五郎様　袴田作次様　使へ弐百文

一中かつを壹本　小貫村銀蔵殿　三弐
一大いなだ壹本　本橋丹蔵様
一角焼物三ッ組中色　十九首竹内氏　百文
にしめ入
一かつを壹本　川井村小栗平七郎殿
一相生壹升　紺屋町米屋万蔵殿
一同断壹升　袋井村市郎右衛門殿
一恵比須酒壹升　枝宿車屋多兵衛殿
一肴一折　桑地村加藤五郎右衛門殿
五明村松浦五兵衛殿　五十
一大かつを壹本　御家中増井良助様　百文
一小かつを壹本　御家中近藤連之助様　百文
一あじ弐連　御家中渡辺茂右衛門様　百文
一すたれ拾枚　横須賀御元〆岩倉彦右衛門様
金五百疋殿様より被下置
一大かつを壹本酒壹升　入山瀬村上組役人中
一ほら二本　高瀬村傳五郎殿
一いなだ二本　金谷宿あめや十蔵殿
鷹惟　名前下の朱数字は俗云ヲウツリにして百文は百文三
弐は三十弐文なるべし。

嘉永四年亥四月十一日
西町より松ヶ丘江移徙
小豆粥　子供
本膳　家内
別家

生盛皿　しらが大根　作り身　赤のり　岩たけ　くり生が　青ミ
汁　青ミ霰魚
小椎茸
坪　いも　焼身　木くらげ
手塩　香之物
千代久　糸引魚　青ぬた
飯
引而　青ミ角切魚　長いも　竹之子　玉子
平　椎茸

西町十王不残呼人数名前

平右衛門　源吉　宗蔵　半吉　五右衛門　八十右衛門　惣次　庄助
権右衛門　政吉　庄七　伊平　万七　文吉　久三郎　伊介　繁蔵
新蔵　周吉　伝次　浅蔵　半平　吉兵衛　重蔵　佐吉　久八
源右衛門　半六　為五郎　亀蔵　甚七　三左衛門　武助　林蔵
万之助　源八母とよ　佐太郎　三五郎　幸吉　小助　金蔵　儀助
又次　清多　仲蔵　太七　藤三　廣助　平助後家　幾蔵母
善右衛門　源吉　熊吉　倉蔵　惣右衛門　九兵衛　松兵衛　熊蔵
冨五郎　久右衛門　半三　鉄蔵　冨七　嘉七　勝蔵　岩助　又八
京介　幸右衛門　與兵衛　惣五郎　彦太　冨蔵　道兵衛　勘右衛門
太吉　源治郎　藤右衛門　久五郎　善吉　民蔵　栄次　金十
杢右衛門　利助　九左衛門　源三郎　冨八　太兵衛　惣左衛門
市太夫　喜右衛門　五兵衛　七兵衛　久右衛門　武八　文太　三代治
長兵衛　傳蔵　忠兵衛　武左衛門　惣七　角右衛門　針医貞策
十王谷助　作右衛門　十郎兵衛　善八　冨治　巳之吉　岩右衛門
長右衛門　儀右衛門　太十　善次郎　周八　鉄兵衛　孫兵衛　久助
樫兵衛　半兵衛　甚蔵　偕八　定七　源八後家　弥十　市太郎
喜左衛門　十助　兵蔵　糸三郎　太兵衛　忠吉　半五郎　弥兵衛
十蔵　八五郎　甚兵衛　喜十　勘治　糸蔵　幸蔵　茂兵衛　千代蔵

嘉蔵　利兵衛　理助　菩薩院　甚蔵　平蔵　為吉　米蔵　卯兵衛
傳右衛門　庄兵衛　安兵衛

味噌吸物切身
うど
硯蓋　長いも　焼玉子　小椎茸　ふき　牛房
外ニ金弐朱宛さかな代として銘々へ遣ス

十二日

皿　あへ盛
汁　豆ふ　小椎茸　青ミ
手塩　香之物
にしめ　里いも　たま子　牛房　ふき
平　〆こんにやく　椎茸　青抜
飯
中酒之肴
小平　氷こんにやく　ふき　小椎茸　玉子とじ
右者出入之者并働之者居合候諸職人是者客来仕舞たすきぬきと可致之
処魚払底ニ付客来出来兼候ニ付　前日江とり越いたし候

十三日

此日魚払底ニ付明日江客来延ス

十四日

銀右衛門　八郎右衛門　嘉助　亀右衛門　元浩　伊兵衛　源多
小左衛門　円満寺　重次　代助　杏庵　六太夫　竹内
味噌吸物　四之外甘鯛
硯蓋　長いも　皮茸　肉焼玉子　蓮根　小串魚　竹之子
あわひ
鉢さかな　まくろ　干うど　青たで　酢味噌　わさび醤油

すまし吸物　口水泉寺のり　こちむすび
丼　あじ　うど　竹之子甘■　しそ　いも小生が
大鉢　はも附焼　粉三升
吸物　鯛眼肉　小あられ　うしお

膳部

千代久　おろし鱠
汁　小佐ミ入　小椎茸　青ミ
手塩　香之物
平　たい　長いも　椎茸　竹之子　子芋
飯
引而焼物　鯛　かます立花焼　皮茸

十五日

市右衛門　八太夫　弥左衛門　善太夫　十右衛門　圓助　彦十
兵衛　武兵衛　十蔵　次左衛門　清右衛門　半助　景■　半十
清兵衛　隆三郎　廣楽寺
味噌吸物　佐ミ入　うど
硯蓋　長いも　蒲鉾　肉焼玉子　竹之子　皮茸　きぬ堂巻
あわび
鉢さかな　わさび醤油　まぐろ　作身
丼　さかな　竹之子　木うり　しそ　たで
すまし吸物　水泉寺のり　甘鯛
大鉢　甘鯛
寿し
吸物　鯛眼肉　うしお

膳部

猪口　糸引魚　伊勢子
汁　口茗荷　佐ミ入　小椎茸
手塩　香之物
平　きり身魚　椎茸　玉子　干いも　竹之子

飯

引而物　鯛　うなき　竹之子

西町馬士人足移徒祝儀として青銅五百文つゝ酒代遣ス名前左之通リ

人足

梅吉　仁助　藤五郎　惣八　八十　長右衛門　平吉　条蔵　安兵衛

嶋吉

馬士

直蔵　為蔵　寅蔵　久左衛門　市右衛門　十五郎　惣七　冨蔵

助蔵

計拾九人

南西郷村呼人数

忠蔵　■次兵衛　丑蔵　五左衛門　庄左衛門　増五郎　関蔵

角右衛門　弥藤二　音右衛門　千代蔵　作五郎　藤次郎　治右衛門

又吉　八兵衛　平左衛門　久七　作兵衛　半次　藤蔵　千代吉　万吉

幸次　喜兵衛　平兵衛　弥七　吉蔵　半右衛門　佐平　彦五郎

藤右衛門　惣五郎　喜左衛門　幸七　與八　八右衛門　嘉平　円十

冨蔵　定七　弥平

〃

四拾弐軒

味噌吸物　きりミ　うどん

なます　銘々に引落ス

外に金弐朱宛さかな料として遣ス

当家の油商営業は西町在住の時限りにして、南西郷へ移転後は同商を廃したるものゝ如し。

六世万右衛門君は安政五年十二月廿六日藩候の允許を得て隠居

し、家督を長男徳次郎君に譲りしか、太田侯は君か多年の功労を思召され、十二月廿六日御紋付御羽織壹領を下賜せらる。
是より先君は同侯より御用達右筆格の取扱を受け爰に至りて更に三人口の隠居扶持を給せられ、搗てゝ相続人徳次郎君に対し従来の廿五人扶持を相続せしめらる。家内の光誉之に過きさるはなし。
君慶応二年十一月一日病を以て歿す、歳五十六。普明常照居士と諡し徳雲寺先塋の域に葬る。君子福者にして五男五女あり。二男万次郎三女某は早く夭す。四男百四郎十王分家を嗣き、長女は松本市右エ門に、二女は鳥井半次郎に嫁す。長男徳次郎君家を嗣く。
妻女せい子は文政九年正月十八日平川村黒田太郎左衛門長女に生れ嘉永元年十一月当家に入り、夫君に後れしこと約四十年、明治三十八年十一月十七日歿す。普室貞照大姉と諡し徳雲寺の墓地に葬れり。

（続）